

## 第3部

# 調査結果から見た 「最近の青少年の姿」 について

# 調査結果からみた「最近の青少年の姿」について

弘前大学教育学部教授 佐藤 三三

今回の調査の特徴は、携帯電話・パソコンの利用実態と刃物の携帯を含めた生活規範についての考え方に重点を置いた点にある。そこで、この二点に注目しながら「最近の青森県の青少年の姿」を推察してみたい。

## 「自己否定」的な児童・生徒の増大

参照：P37～38「自己への評価」

<表-4 自分のことが好きという児童・生徒の割合>

学校種別	男女別	H10年度		H20年度	
小学生	男子	80.7%	85.8%	74.9%	
	女子				63.3%
中学生	男子	65.1%	61.9%	51.2%	
	女子				38.6%
高校生	男子	56.4%	49.5%	45.9%	
	女子				42.2%

\* H10年度は男女の別なし。

\* 割合は「好き」と「どちらかといえば好き」の合計。

ちょうど10年前の調査と比較してみた場合、「自分のことが好き」という、いわば「自己肯定」的な児童・生徒が減少している。

女子の方が小・中・高校生ともに「自己否定」的傾向が強い。男女の発達段階の差や女子の方が容姿や性格の善し悪しを問われる傾向が強いという社会的な問題もあると思う。しかし、全体的傾向として「自己肯定」的な児童・生徒が減少していることは明らかである。

最近の大学生を見ていて強く感じることもある。友だちに対してとっても寛大で優しいこと、物静かであること、そしてとっても人当たりがいいことである。しかし、その本質は、内向きである。いつも自己防御していて、自分が傷つくことにおびえているように見える。自己否定的青少年の増加と関係があるのだろうか。

## 学校生活が「楽しい」理由は？

参照：P16～17「学校生活への満足度」、P18「学校生活が楽しい理由」、P19「学校生活が楽しくない理由」

<表 2 学校生活は楽しいか>

学校種別	男女別	H18 年度		H20 年度	
小学生	男子	89.7%	89.9%	85.4%	88.2%
	女子	90.2%		91.3%	
中学生	男子	80.2%	83.9%	86.7%	84.9%
	女子	88.0%		82.9%	
高校生	男子	80.0%	77.3%	76.6%	78.3%
	女子	74.5%		80.0%	

\* 割合は「楽しい」と「どちらかといえば楽しい」の合計。

80～90%前後のこの数字を高いと見るべきか低いと見るべきか。やはり望むところは 100%＝すべての児童・生徒ということになるであろうか。

「楽しい」理由等について、今回初めて質問を試みた。小・中・高校生のすべてに共通した傾向が見られる。第1位「好きな友だちがいるから」。第2位「クラブ活動や部活動が楽しいから」。第3位「学校行事が楽しいから」。そして第4位は「授業が楽しいから」であった。

他方「学校が楽しくない」児童・生徒の理由は、「授業が楽しくないから」であった。

学校の本質は、「授業」にある。そしてすべての児童・生徒が、勉強が出来るようになりたくて学校に行っていることも明白な事実である。今になって思えば、他者との比較でしか自分の位置を確認できないような競争主義や比較主義の思考方法を我々が身につけるのは、「学校教育」をおいてのことではなからうか。他者と比較して一喜一憂する「授業の楽しさ」ではなく、昨日の自分と今日の自分を比較して一喜一憂する「授業の楽しさ」を教えてくれることこそ、本当の教育のあり方のように思う。

## メディア・コミュニケーション

### 1. 「メール世代の登場」から「メール世代の定着」へ

参照：P52「友だちとのコミュニケーション方法」

<表 3 友だちとのコミュニケーション方法>

項 目	小学生	中学生	高校生
直接会って話をする	80.2%	72.5%	67.8%
電話をする	11.0%	7.9%	5.2%
メールをする	1.2%	14.0%	25.7%
チャットや掲示板を利用する	0.2%	1.7%	0.5%
手紙をやりとりする	5.6%	3.2%	0.5%
その他	1.7%	0.7%	0.3%

小・中学生は、学校が携帯電話の所持を原則禁止しているため、高校生に顕著な傾向であるが、従来、「会話」に次ぐ主要なコミュニケーション手段であった電話や手紙に代わって、携帯電話による「メール」が第2位に浮上している。言い換えるならば、高校生にとって携帯電話は、「会話の手段」であるより「メールの受発信器」、といった方が的確であろう。前回の18年度調査も同様な傾向が見られたことを考えあわせるならば、「メール世代の登場」から「メール世代の定着」へ、と表現していいであろう。

メールの特徴は、会話に比してはもとより、電話や手紙よりも一層「一方向的」である。また会話以上に即決的に短文で表現し、文章化する。相手からの返信もまた同じである。あなたと私の相互の関係は電話や手紙以上に皮相化する。

コミュニケーション能力の低下は、文明のもたらす必然であろうか。

## 2. 小・中学生も、二人に一人は「インターネットのできるパソコンが、家にある」

参照：P55「インターネットのできるパソコンの所有状況」

＜表 4 自由に使えるパソコン（インターネット利用可）が家にある＞

項 目	小学生	中学生	高校生
自分専用のものがある	5.7%	6.7%	8.5%
家族使用のものがある	51.2%	43.7%	46.6%
ない	43.2%	49.5%	44.9%

ほとんどすべての高校生が携帯電話を持っていて、インターネットの利用が可能である。

しかし、携帯電話をほとんど持っていない小・中学生であっても、半数の者が自由に使えるインターネットのできるパソコンが家にある。

## 3. 小学生でも、二人に一人は「情報サイトにアクセスしたことがある」

参照：P56「情報サイトへのアクセス状況」

＜表 5 情報サイトにアクセスしたことがあるか＞

項 目	小学生	中学生	高校生
よくしている	14.6%	27.0%	68.6%
ときどきしている	21.9%	24.0%	20.2%
何度かある	13.4%	14.2%	6.5%
ない	50.0%	34.9%	4.7%

革命的なコミュニケーション手段あるいは情報の泉としての携帯電話・パソコンは、もはや児童・生徒にとって物珍しいものではなく、日常化した。そして、彼らを色とりどりの多様な世界に誘う「ツール=どこでもドア」となっている。

## 4. 小学生は「勉強・ゲーム」、中・高校生は「音楽とブログ」、女子は多様な利用。

参照：P57～58「情報サイトの利用目的」

＜表 6 情報サイトの利用目的＞

	小学生	中学生	高校生
第1位	勉強に必要な情報を調べる (50.0%)	音楽や画像をダウンロードする (66.9%)	音楽や画像をダウンロードする (87.5%)
第2位	音楽や画像をダウンロードする (38.9%)	ホームページやブログを見たり、作ったりする (56.2%)	ホームページやブログを見たり、作ったりする (73.2%)
第3位	オンラインゲームをする (36.4%)	掲示板を見たり、書き込みをしたりする (26.9%)	掲示板を見たり、書き込みをしたりする (41.1%)

どんな情報サイトにアクセスしているのであろうか。

高校生の多様で積極的な利用が目立っている。とくに「音楽や画像のダウンロード」(87.5%)と「ホームページやブログを見たり、作ったり」(73.2%)が群を抜き、それに「掲示板を見たり書き込みをしたり」(41.1%)が続いている。中学生も高校生の利用形態にほぼ準じている。

もっとも特徴的なのは、中・高校生の女子であろう。男子に比べて、まんべんなくいろいろなところにアクセスしている。この調査を通していつも感じることは、女子の方が男子よりも人間関係(コミュニケーション回路)が豊かであるということである。そのことと関連があるように思われる。

## 5. 高校男子の37%がほぼ日常的に「年齢制限サイト」にアクセスしている。

「学校裏サイト」は全学年を通じてわずかである。

参照：P59～60「年齢が制限されているサイトへのアクセス状況」、P60「学校裏サイトへのアクセス状況」

＜表 7 年齢制限サイトにアクセスしたことがあるか＞

項 目	小学生	中学生	高校生
よくしている	0.0%	2.6%	10.1%
ときどきしている	1.2%	4.2%	12.9%
何度かある	5.5%	10.2%	22.7%
ない	93.4%	83.1%	54.3%

＜表 8 学校裏サイトにアクセスしたことがあるか＞

項 目	小学生	中学生	高校生
よくしている	0.2%	1.9%	2.0%
ときどきしている	0.2%	1.6%	3.3%
何度かある	0.9%	4.4%	19.9%
ない	98.6%	92.1%	74.8%

小・中学生の「年齢制限サイト」へのアクセスはごくわずかである。しかし、高校生の男子になると「よくしている」16.0%、「ときどきしている」21.0%と急増する。

これに比べると「学校裏サイト」へのアクセスは、小・中・高校生ともにごくわずかである。

## 6. フィルタリング機能付きの携帯電話・パソコンの普及は、まだわずかである。

参照：P62「フィルタリング機能の認知状況」、P63「フィルタリング機能の利用状況」

<表 9 フィルタリング機能を知っているか>

項 目	小学生	中学生	高校生
知っている	27.8%	55.9%	79.4%
知らない	72.2%	44.1%	20.6%

<表 10 フィルタリング機能が有効になっているか>

項 目	小学生	中学生	高校生
有効になっている	7.2%	18.3%	13.5%
有効になっていない	11.5%	23.2%	54.9%
わからない	81.4%	58.5%	31.6%

「フィルタリング」とはどのようなことであるのかについて、高校生の場合約80%が知っているが、中学生では56%、小学生で28%と急減する。本人の「年齢制限サイト」や「学校裏サイト」への関心の強弱や家庭での関心度の高低に関係していると思われる。

## 刃物の使用・利用実態 —あまり持ち歩かず、利用せず—

<表 11 刃物（学校で使う以外）を持ち歩いたことがあるか>

項 目	小学生	中学生	高校生
ある	6.8%	9.6%	8.3%
ない	93.2%	90.4%	91.8%

<表 12 刃物を『使う』割合>

項 目	小学生	中学生	高校生
料理	93.4%	82.7%	83.9%
工作	58.6%	42.4%	26.8%
農作業	31.3%	23.1%	21.3%
自然体験活動	40.8%	33.5%	27.6%

\* 割合は「よく使う」と「たまに使う」の合計。

刃物を持ち歩いた経験のある児童・生徒は10%未満である。常時持ち歩いている者がいるかどうかは不明であるが、「一人もいない」ことを願っている。

料理で包丁等を使う児童・生徒は90%前後いるが、その他の場面での使用状況から判断すると、現代の青少年にとって刃物は日常的な「道具」ではなくなっていることは明らかである。

### 善悪基準の曖昧化・混沌化

<表-13 生活規範の意識>

項 目	小学生	中学生	高校生
いつも遅刻をするのは問題ない	34.0%	22.8%	18.8%
友だち同士の約束を破るのは問題ない	26.7%	20.1%	14.3%
自転車の二人乗りをするのは問題ない	32.8%	32.1%	37.5%
気に入らない相手を見捨てるのは問題ない	27.3%	24.1%	19.4%
気に入らない人の悪口を電子掲示板などに書き込むのは問題ない	30.9%	24.2%	15.8%
自分のプロフィールや写真を直接あったことのない相手と交換するのは問題ない	32.9%	34.6%	35.8%
親や先生に暴力を振るうのは問題ない	30.7%	22.6%	15.5%
制服の長さを変えて着たり、髪の毛を染めたり、化粧をして登校するのは問題ない	35.7%	26.6%	36.0%
ピアスやタトゥー（入れ墨）をするのは問題ない	34.4%	26.6%	32.3%
お酒を飲んだり、タバコを吸うのは問題ない	31.1%	23.8%	23.7%
覚醒剤等のドラッグ(薬物)を使用するのは問題ない	30.7%	21.4%	14.6%
万引きをするのは問題ない	30.6%	21.4%	15.0%
いじめをするのは問題ない	28.7%	21.2%	15.0%

前回調査（平成18年度）でも強く指摘したことであるが、小・中・高校生を通じて、「何が良いことで、何が悪いことか」の判断が、極めて曖昧になり、混沌とした状態に陥っている、という事実である。小学生→中学生→高校生になるにしたがって多少是正されていく傾向が見られるとはいえ、「いじめ」のようにあれだけ身近なこととして問題になっているにもかかわらず、小学生のおよそ30%が「問題ない」と考えている。

全体的に小学生における曖昧化・混沌化が顕著である。社会の大人達や身近な親（家庭）の規範意識との関係が強いとも思われるが、それほど単純なことでもないであろう。

一体全体どうなっているのだろうか、なぜなのだろうか。

なお、ある小学校の先生から、次のような指摘をいただいた。この問いの解釈に大きな影響を与える事柄であるため、参考までに付記しておきたい。

「次のことについてどう思うか（問題ないことか、やや問題のあることか、大問題であることか）」という問いを「私（児童）自身にとって問題ないかどうか」と問われていると考えて、「問題ない」を選んでいる児童も中にはいたようだ。ほかにもそう考えて回答している児童・生徒がいるとすれば、結果が異なってくる可能性もある。

したがって、次回の調査では、問いや選択肢の表現を変えてみる必要があるだろう。